

トマト・半促成（シンディースウィート）

安房農林振興センター

1 地区名（集団名）

鴨川市（ながさ観光農業組合）

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 6戸
- (2) 栽培面積 17a
- (3) 出荷量 17 t (10t/10a)
- (4) 出荷先又は販売方法

鴨川市総合交流ターミナル「みんなみの里」での販売及び「みんなみの里」に隣接するハウスでのトマト狩り。

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬(成分回数)	4回	16回(購入苗)
化学肥料(窒素分量)	6.2kg/10a	18.5 kg/10a

4 事例のあらまし

鴨川市長狭地区に拠点を置いて活動する「ながさ観光農業組合」では、平成16年から「いちご（促成）」で「ちばエコ農業」に取り組んでいます。本事例の「トマト（半促成）」は平成16年に導入したもので、平成18年から「ちばエコ農業」に取り組んでいます。

有機質入り肥料と組合員が生産した牛糞たい肥を使用することによって、化学肥料の基準値以内で栽培することができました。また、土壌還元消毒を行い、化学合成農薬に含めない農薬を使用することで、化学合成農薬の使用回数を減らしました。

農産物直売所や観光農業において「安心・安全」を提供する「ちばエコ農産物」へのニーズは高いことから、今後も継続して「ちばエコ農業」に取り組めます。

5 背景・動機

「ながさ観光農業組合」は、野菜農家2戸、水稻農家2戸、肉牛肥育農家2戸の計6戸の生産者で構成されています。これからの地域農業の中核を担う生産者が、それぞれの経営を行いながら共同で観光農業に取り組んでおり、自分達の地域の活性化を目指して志高く活動しています。組合員は、自分の経営の中でも水稻や野菜の「ちばエコ農業」に取り組むなど、環境への配慮や「安心・安全」な農作物への意識が高いと言えます。

当組合は「トマト」に先行して「いちご」で「ちばエコ農業」に取り組んでいます。販売形態のひとつの「いちご狩り」では、摘み取ったいちごをその場で食べることから、特に「安心・安全」なものが求められています。そこで「ちばエコ農産物」ののぼりを掲げるなどPRをしています。

平成16年にハウスを増設して「トマト」を導入したところ、お客様に大変好評であったため、栽培を継続することとなりました。そこで「トマト」も「安心・安全」なものを提供したいとの思いから、「ちばエコ農業」に取り組み始めました。



通路を広く取っています



摘み取りの様子

6 栽培方法

(1) 土づくり

牛ふんともみがらを原料とした完熟たい肥を施用して土づくりを行うことで、化学肥料を削減しました。組合員に畜産農家があり、良質なたい肥が十分にあります。また、大型ハウスなのでマニユアスプレッダを使うことができるため、大きな労力を必要とせずたい肥を散布することができます。

(2) 施肥

生育を観察しながら適期の追肥に努め、緩行性の有機質肥料も用いることによって、化学肥料の低減を図りました。

(3) 病虫害防除

土壌還元消毒を行い、化学合成農薬に含めない農薬を使用することで、化学合成農薬の使用回数を減らしました。また、病気になりにくいほ場環境づくりに努めました。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成19年 5月 5日
耕 起	7月15日
定 植	10月12日
収 穫 開 始	平成20年 1月30日
収 穫 終 了	5月25日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全 N	化学N
牛ふんたい肥	平成19年 9月19日	5t		
ロイヤルL 苺専用 (6:6:6)	9月20日	144kg	8.6kg	3.5kg
OK-F-1 (15:8:17)	平成20年 2月15日	6kg	0.9kg	0.9kg
OK-F-1 (15:8:17)	3月16日	6kg	0.9kg	0.9kg
OK-F-1 (15:8:17)	4月17日	6kg	0.9kg	0.9kg
合 計			11.3kg	6.2kg

(イ) 病害虫・雑草防除等

使用農薬	対象病害虫	実施年月日
ラノーテープ	コナジラミ類	平成19年10月12日
スタークル粒剤	コナジラミ類・アブラムシ類	10月12日
トマトトーン	着果促進、果実の肥大促進、 熟期の促進	10月20日
※インプレッション水和剤	葉かび病	10月28日 12月29日
※イオウフロアブル	トマトサビダニ	11月 6日
カスケード乳剤	オオタバコガ・マメハモグリ バエ	11月 6日

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

7 今後の展望等

隣接する鴨川市総合交流ターミナル「みんなみの里」では、「ちばエコ農産物」を積極的に販売して環境保全型農業に取り組む地元農家を応援しています。「安心・安全」な農産物を求めるお客様の声に応える「ちばエコ農業」への取組が地域の特色になりつつあります。

体験交流を通して、都市住民に農村や農業への理解を深めてもらうために、長狭地区では「みんなみの里」を核として様々な農業体験メニューを用意しており、今後も拡充する予定です。本事例のトマトも「安心・安全」な農産物であるだけでなく、味の良さやほ場で赤く熟している実の美しさがお客様に好評です。今後は、長狭地区の新しい目玉商品となるように、生食だけではない商品提案をしていきたいと思えます。

体験メニューとして「安心・安全」な農産物であるということにとどまらず、「楽しい・美味しい」といった体験を付加価値として提供できる地域づくりを続けていきます。